令和４年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
アソシエイト校における取組について

１．アソシエイト校について

類型名	グローカル型
学校名	愛知県立惟信高等学校
管理機関名	愛知県教育委員会

２．令和４年度における取組について、該当する欄に〇を記入してください。

	参画した	参画していない
2023/3/17 開催 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」 成果検証報告会（視聴のみ参画も可）	〇	
2023/1/17 開催 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット （視聴のみ参画も可）	〇	
【プロフェッショナル型のみ回答】 2022/10/15、16 開催 全国産業教育フェア青森大会		

３．問２以外で実施した地域との協働による学習活動等の取組について、以下の回答欄に記入してください。また、記載いただいた内容について、参考となる資料があれば提出してください。（様式任意）

- 創立 100 周年記念事業に向けた地域貢献活動「やったるがや！惟信地域 100 日清掃］
- 「総合的な探究の時間」における地域探究活動（フィールドワーク）とそのグループ発表、成果発表会の実施

５．管理機関担当者

担当課	高等学校教育課	TEL	052-954-6787
氏名	鶴見泰文	FAX	052-961-4864
職名	課長補佐	E-mail	hirofumi_tsurumi@pref.aichi.lg.jp

Ⅰ　創立 100 周年記念事業に向けた地域貢献活動
「やったるがや！惟信　地域 100 日清掃」

教頭　鬼頭　英伸

はじめに

大正 14 年（1925 年）、本校は、地域の文化発展と教育振興の役割を期待され、前身である愛知県惟信中学校として開校した。戦後、旧制中学校から新制高等学校へ移行し現在の愛知県立惟信高等学校へと変わった。この間、それぞれの時代の要請に応えつつ２万有余名の卒業生を輩出してきた。

令和６年（2024 年）に創立 100 周年という大きな節目を迎えるにあたり、記念事業については当該年だけで終始完結するものではなく､｢100 周年に向けて徐々に気運を高め、積み上げていくことができるものにしたい」というコンセプトのもと、学校・生徒が前向きになり、本校の魅力づくりとなって外部に発信できるような取組ができないか、生徒に自信と誇りを持たせるような取組ができないかなど､これまでの100年を振り返り、築かれてきた伝統を受け継ぎ、これからの 100 年を見据える機会と捉え記念事業の準備へ取り組んできた。

そのような中、令和２年度から、県教育委員会の事業である「地域の未来を創る人材育成事業（道徳教育推進事業）」の実践指定校となった。この事業の趣旨は､「生徒が人としての在り方生き方についての自覚を深められるよう、道徳教育の実践や様々な体験活動、交流活動、地域貢献活動を実践し、持続可能な地域社会の構築に向け、生徒の人間関係をつくる力やコミュニケーション能力を養うとともに、多様な人々の存在を尊重しながら自らを高め、地域の未来に役立つことのできる人材を育成する」ことである。そのため、100 周年記念事業に向けた徐々に気運を高める活動（以下、カウントダウン）において、本事業とのコラボレーションを考え、生徒参画型の地域貢献活動として「地域 100 日清掃」を企画した。

１　地域 100 日清掃について

「地域 100 日清掃」は、「地域の未来を創る人材育成事業」の２年目である令和３年度から始めた。本校が創立 100 周年を迎える令和６年度の３年前から、その言葉通り「カウントダウン」として３年前に 33 回、２年前に 33 回、１年前に 33 回の地域清掃を実施し、当該年度である令和６年度に学校の全体行事として、本校が位置する名古屋南部地域にある「藤前干潟」（**図１**）の環境保全活動に参加することで、合計 100 回の清掃活動を実施しようと企画したものである。

「藤前干潟」は、名古屋市港区と海部郡飛島村にまたがる地域にあり、伊勢湾に流れ込む庄内川、新川、日光川が合流する河口にある。また、平成 14 年（2002 年）11 月にラムサール条約の「国際的に重要な湿地」に登録された、訪れる人々の心を和ませる自然豊かな干潟である。

「藤前干潟」は、渡り鳥の中継地・休憩場所として重要な干潟であり、カニ類・貝類・ゴカイ類など多くの底生生物も生息しており水質をきれいに保つ働きも持っている。その一方で、海や河川から漂着したペットボトル

図１　藤前干潟

やびん、空き缶、プラスチックなどのごみもみられる。こうしたごみの影響で、最終的には干潟に住む生き物の生態系を壊すことにもつながる。そこで、学校をあげた清掃活動を通して干潟の環境を保全し、生徒に地域貢献活動の必要性を理解させるとともに道徳性を養い、持続可能な地域社会の構築に携わらせることで生物多様性への理解を深めさせようと、100 日清掃の最後に「藤前干潟環境保全活動」への参加を計画した。

2　地域 100 日清掃の実践

地域清掃は、１団体（ＨＲ・部活動など）が行うたびに１回とカウントをして、そのたびに記録表（**図２**）にスタンプを押し、どこの団体が行ったか記録をつけるようにした。記録表は職員室の廊下に掲示し、多くの生徒の目に触れるようにした。各ＨＲ用に地域清掃マニュアル（**図３**）を作成し、お薦めの清掃コースなども示して啓発し、ＬＴの時間にどこかで１回の実施を依頼した。また、部活動や有志の生徒への呼びかけも行ったが、初年度はあまり回数が伸びず、予定の 33 回を終えることができなかった。

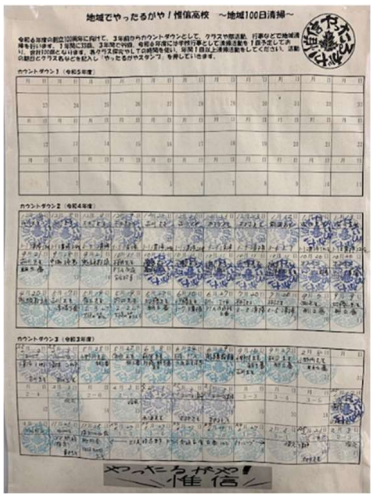


図２　記録表

図３　地域清掃マニュアル

図４　地域清掃の様子

前年度の反省を踏まえ、２年目の令和４年度は、毎週火・木・金の全校一斉清掃時に地域清掃活動の実施を依頼することで目標の 33 回を終え、さらに前年のできなかった回数の内いくつかを実施することができた。また、教職員による朝の立ち番やＰＴＡによる交通安全指導（年２回）の折には、校外の各所に立ち番に行ってもらっている帰りに、ごみを拾いながら学校まで帰ってくるなどの協力をいただけた。保護者にも本校が地域の清掃活動を実施していることが伝わったのは意義があったように感じる。

3　まとめ

本校の本年度の重点目標の文中に「国際的な視野を持って、地域に貢献できる人材（グローカル人材）の育成を目指す」という部分がある。また、スクールポリシーの一つには「高い志を持ち、社会に貢献することができる人」がある。そのような人材を育成していくためには、この「地域 100 日清掃」においては、生徒が、本校を取り巻く地域の現状がどのようであり、何が必要で、自分たちがどう行動したらよいのか、自ら考え、主体的に行動することができるよう、さらなる「しかけ」をする必要性を感じた。

来年度は、「地域 100 日清掃」最後の３年目となる。一人でも多くの生徒が参加し、地域に目を向け、地域に貢献するという意識を持てるよう働きかけたい。また、地域貢献は清掃活動だけではない。普段の生活の中から「人のために」という意識を持ち、「心の学校、惟信」であり続けることができるよう、今後も働きかけていきたい。

Ⅳ　令和４年度の取組

令和４年度は、本事業３年目のまとめの年度となる。昨年度同様、１・２年生の総合的な探究の時間を活用し、実践を進めた。年間計画についても、昨年度実施したように、１学期は「探究基礎」と「探究の型」、２学期の途中から「地域探究」、３学期に「グループ発表」、「成果発表会」という流れとした。

今年度は、担当者の業務の軽減を図る目的で、教務部が「地域の未来を創る人材育成事業」を担当することとし、「探究推進委員会（グローカル人材育成担当者会）」を主管し、学年を動かしていくという形式で事業を進めていった。そのため、１・２年の学年主任が担任団に向けて年間の計画や教員向けの授業マニュアルなどを示すこととなった。

１　１年生の取組

令和５年度には、１～３年生すべての学年で総合的な探究の時間を同様の形式で実施していくことを念頭に置き、昨年度の反省でもあがっていた「３年間の見通しをもった計画の作成」について、この活動の目的や育成したい生徒像を明確化し、留意点なども含めて年度当初に取り上げた。

Ⅳ.1.1　第１学年総合的な探究の時間の実施要項から

１　目的

グローカル人材の育成を目指し、探究の見方・考え方を働かせ、自己を客観的に見つめ（メタ認知）、横断的、総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方、生き方を考えながら、より良く課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成する。

Ⅳ.1.2　第１学年総合的な探究の時間の実施要項から

総合を行う上で留意したいこと

(1)　３年間の見通しを生徒に持たせたい。

１年次・・探究や課題研究を行う上で必要となる基礎的なスキルや研究倫理を学び、世界や地域の諸問題について調査・発表をする。個人での調査・発表を中心とする。

２年次・・１年次に学習した内容をベースに、研究のための問いの立て方や量的調査・質的調査の手法などを学び、世界や地域の諸問題について、自ら研究テーマを設定し、調査・発表をする。グループでの調査・発表を中心とする。

３年次・・これまでに学習した内容を活かし、自らの興味・関心のある内容について研究テーマを設定し、調査・発表をする。個人での調査・発表を中心とする（自らの進路目標や社会や学術的な課題と重なる研究テーマだとなおよい）。

・１年次には基本的なスキルや研究倫理を確実に身に付けさせたい。
・自らの学びを記録・蓄積させながら行いたい。

本年度は、２学期の途中で、ＮＰＯ法人アスクネットに依頼し、インターンシップを実施した。

Ⅳ.2.1　ＮＰＯ法人アスクネット

学校と地域をつなぐ専門家「キャリア教育コーディネーター」です。

地域で活躍する市民の方を学校にお連れし授業をおこなっていただいたり、年間を通じたキャリア教育の効果的なプログラムを計画したり、インターンシップのプログラムを設計するなど、学校と社会をつなぐ教育のサポートをおこなっています。

（アスクネットＨＰから）

また、生徒に研究テーマの設定や「問い立て」をさせようと「探究基礎」の段階で取り組んだ。

Ⅳ.3.1　２学期以降の計画

	９月１日	始業式・課題考査　インターン先希望調査・自己紹介カード記入（LT）
9	９月８日	探究基礎Ⅰ：問い立て①
10	９月15日	探究基礎Ⅱ：問い立て②
	９月22日	校祭
11	９月29日	探究基礎Ⅲ：問い立て③発表と話し合い
12	10月６日	**アスクネット　インターン事前指導@惟信館**
	10月13日	２学期中間考査
13	10月20日	［※５・６限対話型防犯教室］ 探究基礎Ⅳ：問い立て④インターンに関して
	10月25日	**インターンシップ**
14	10月27日	**インターン事後指導**
	11月3日	文化の日
15	11月10日	探究活動Ⅰ：テーマ設定・問い立て①
16	11月17日	探究活動Ⅱ：問い立て②
17	11月24日	探究活動Ⅲ：情報収集
	12月１日	期末考査
18	12月８日	探究活動Ⅳ：整理・分析
19	12月15日	探究活動Ⅴ：発表準備①
	12月22日	保護者会
	１月12日	学びの基礎診断
20	１月19日	探究活動Ⅵ：発表準備②
21	１月26日	探究基礎Ⅴ：プレゼンテーション
22	２月２日	探究活動Ⅵ：グループ発表
23	２月16日	探究活動Ⅶ：クラス発表
24	３月２日	探究活動の振り返り
25	３月９日	成果発表：惟信館にて代表発表（１・２年合同）

Ⅳ.3.2　問い立てワークシート（学年主任作成資料）

総合的な探究　①問い立て

（　　）組（　　）番　名前（　　）

探究領域	［　　］			
探究テーマ	［　　］	［　　］	［　　］	［　　］
探究の問い				

1 ページ

Ⅳ.3.3　「問い立て」のための資料（学年主任作成資料）

総合的な探究の時間～理想の問いを立てよう～

個人で ▶　情報収集したことも踏まえ、探究テーマから探究の問いを立ててみよう。

設定した探究テーマ

● Q思考を使って立てみよう

なぜ（ギャップを発見）	▶	もし～だったら（改善策の仮説）	▶	どうすれば（仮説の実行）

● 5W1H＋Yes/No を使って思いつく部分から埋めてみよう

WHO（誰が？）	
WHAT（どういう意味？）	
WHEN（いつから？）	
WHERE（どこで？）	
WHY（なぜ？）	
HOW（どうやって？）	

信憑性（真実か？）	
比較（他では？）	
特殊化（これについては？）	
一般化（これだけか？）	
限定（すべてそうか？）	

信憑性（真実か？）	
比較（他では？）	
特殊化（これについては？）	
一般化（これだけか？）	
限定（すべてそうか？）	

● 組み合わせてみよう

＋	
＋	
＋	

▶ STEP９ 最終的に個人として取り組む「探究の問い」を決定しよう。

できたらチェック！
□興味のあるテーマ
□疑問文になっている
□具体的である
□すぐに答えがでない
□高度に専門的でない

１年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

Ⅳ.3.4　グループ発表について（学年主任から各担当者への連絡から）

(1)　５人（４人）グループで３分程度の発表をしてもらいます。

(2)　発表者は発表資料を見せながら発表します。

(3)　聞き手には評価シートをもとに評価をさせてください。その評価が「総合的な探究の時間」の評価に関係することも伝えてください。

　また、質疑応答の時間を設けますので、「質問することを考えながら聞くとよい」と伝えてください。

　評価シートをもとに、１番点の高い人は３月２日（木）にクラス全体に発表してもらうことも伝えてください。

　発表（３分）→質疑応答（３分程度）……次の人……　６分×５人→３０分です。

　残りの時間で Forms を使って「総合的な探究の時間」の振り返りをしてもらいます。

　評価シート（プレゼンテーション・チェックシート）を作成し、それぞれの発表に対して、生徒相互で評価を付けさせた。

Ⅳ.3.5　評価シート

プレゼンテーション　チェックシート

（　　）組（　　）番　（　　）

情報を盛り込みすぎず　構成が整理されている	
イラスト・写真・映像などが効果的に使われている	
主張すべき点を分かりやすく端的に述べている	
聞き手とやり取りしながら説明している	
身振り手振りを効果的に使っている	
時間配分が適切（３分程度）	

（　　）番（　　）より

クラス発表の様子①

クラス発表の様子②

　クラス発表でもっともよい発表をした生徒を、クラス代表として成果発表会で発表することとして、１年間の総合的な探究の時間のまとめとした。

２　２年生の取組

２年生の総合的な探究の時間は、基本的には１年生と同様の日程で進めていき、年度の最後に予定されている「成果発表会」については、１・２年生合同での実施を計画した。

Ⅳ.4.1　年間計画（１学期）

令和４年度　２年生総合について

2022.4.5

１　目的

グローカル人材の育成を目指し、探究の見方・考え方を働かせ、自己を客観的に見つめ（メタ認知）、横断的、総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方、生き方を考えながら、より良く課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成する。

２　スケジュール

１学期

	4/7	始業式	問いの立て方を学ぶ
1	4/14	探究オリエンテーション	
	4/21	体力テスト	
2	4/28	グループ決め、KJ法	
	5/5	こどもの日	
	5/12	１学期中間考査	
	5/19	修学旅行	
3	5/26	追加のキーワード、KJ法で考えをまとめる	
	6/2	学びの基礎診断	
4	6/9	「探究テーマ」と「問い」を考えてみる①	
	6/16	学部学科説明会	
5	6/23	「探究テーマ」と「問い」を考えてみる②	
	6/30	１学期期末考査	
6	7/7	「探究テーマ」と「問い」を考えてみる③（発表）	
	7/14	保護者会	

○教材について

マイナビ『探究学習の進め方』

研究テーマ（探究する領域）を、生徒の生活や興味関心に基づき大きく６つ（「勉強」、「部活」、「アイドル」、「アニメ」、「バイト」、「日本」）設定し、そのテーマ内でクラスのグループで「問い」を立てさせた。

Ⅳ.4.2　研究テーマと問い

令和４年度　総合的な探究の時間（１学期）　探究領域と問い

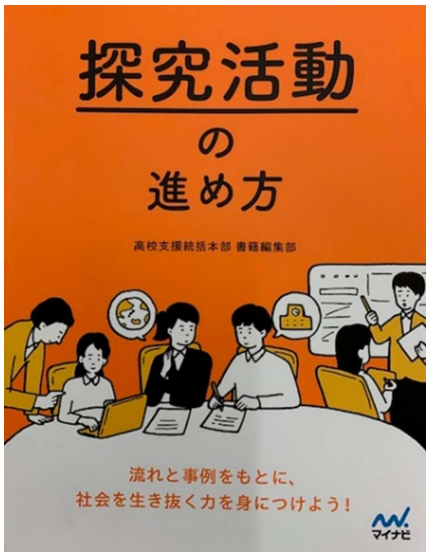
組	探究領域	問い
	勉強	私たちは成績を上げるために長時間勉強をしがちだが、他国の人々はどのように勉強に取り組んでいるのか
	部活	同じメニューを同じだけやって、かつ、真面目にやるかやらないかで筋力に差はできるのか。どのくらい差が出るのか
	アイドル	人気が出るアイドルの特徴や条件は何か
	アニメ	なぜ日本のアニメは海外で人気があるのか
	バイト	学校でたくさん勉強して職に就いた場合とバイトという社会経験をして職に就いた場合とでは、どちらの方が優秀なのか
	日本	和食と洋食ではどちらが身体的に健康を与えるか

Ⅳ.4.3　「問い立て」の計画

令和４年度　第２学年　総合的な探究の時間　　『問いの立て方』進め方について

時数		STEP	内容	補足	テーマ
1	4/14	探究オリエンテーション	探究の概念理解	マイナビ講演	・なぜこれからの社会は探究をしなければならないのか ・探究って今までもやっていたけど、気付いていたか？ ・探究の基礎知識（調べて発表×、自分の頭で考える○） ・KJ法って何？
2	4/28	グループ決め、KJ法	アイデアの拡げ方	テキスト、付箋、模造紙	「①勉強」「②アイドル」「③アニメ」「④部活動」「⑤バイト」の中から思いつくままにキーワードを出してみる
3	5/26	追加のキーワード、KJ法で考えをまとめる	情報整理	テキスト、付箋、模造紙	・情報収集 ・前回出したキーワードをKJ法を用いて色々なカテゴリーに分けてみる（関係図作成）→クラス発表
4	6/9	「探究テーマ」と「問い」を考えてみる①	問い立て①	テキストp26～31 ワーク WORK01	「①勉強」「②アイドル」「③アニメ」「④部活動」「⑤バイト」を「探究領域」とし、「探究テーマ」と「問い」を考えてみる。
5	6/23	「探究テーマ」と「問い」を考えてみる②	問い立て②	テキストp26～31 ワーク WORK02 STEP8	「①勉強」「②アイドル」「③アニメ」「④部活動」「⑤バイト」を「探究領域」とし、「探究テーマ」と「問い」を考えてみる。 →今度は「Q思考」と「5W1H+YES/NO」を使って「問い」を考えてみる
6	7/7	「探究テーマ」と「問い」を考えてみる③（発表）	問い立て③	テキストp26～31 ワーク WORK02 STEP8	クラス発表。その後他の班の発表を受けて、他にどんな「問い」が考えられそうか話し合いz（グループ）
7	9/1	「問い」に対して調べてみる①	情報収集①	テキストp26～31 ワーク WORK02 STEP10	グループで考えた「問い」に対して、それぞれインターネットで検索をしてみる①
8	9/8	「問い」に対して調べてみる②	情報収集②	テキストp26～31 ワーク WORK02 STEP10	グループで考えた「問い」に対して、それぞれインターネットで検索をしてみる②
9	9/15	調べたことをまとめてみる①	整理・分析①	テキストp26～31 ワーク WORK02 STEP11	ミニポスター形式でまとめてみる①
10	9/29	調べたことをまとめてみる②	整理・分析②	テキストp26～31 ワーク WORK02 STEP11	ミニポスター形式でまとめてみる②
11	10/6	発表	クラス発表	テキストp26～31 ワーク WORK02 STEP11	クラス発表。その後、他の班の発表を受けて、どんな気づきがあったのか話し合い
12	10/27	次にどんなことに取り組みたいと思うか（探究サイクルの定着）	次の問いへ	テキスト、付箋、模造紙	今回の活動を終えて、次はどんな課題に取り組みたいと思うか、どんな疑問点が残ったか話し合い →これから生きていく上で、今回学習したことは「どんなメリット」があると思うか

２年生では、「教員側が『教える』形式の授業ではなく、生徒が探究する活動を支援する形式であるため、教員側にも少なからずの戸惑いがある」という昨年度の反省を踏まえ、「探究活動の進め方」（高校支援統括本部書籍編集部）というマイナビのテキスト（図 14）を活用しながら探究活動を進めた。



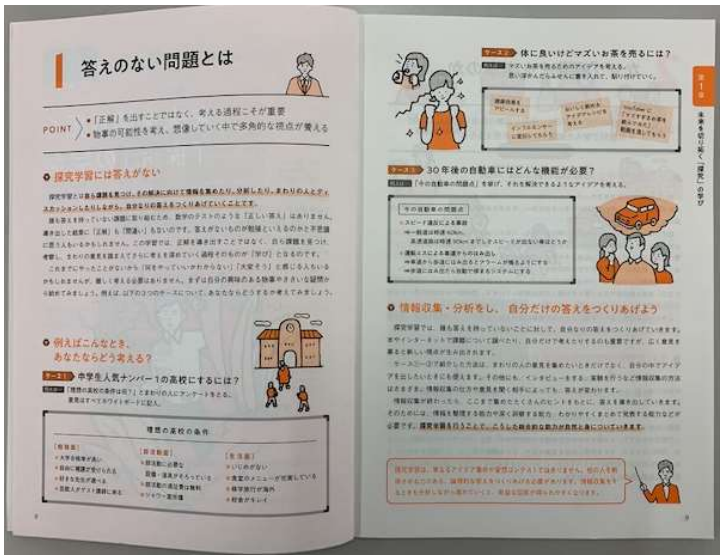


図１４　マイナビテキスト

地域探究では計画通り、生徒自身の力で、訪問する場所を選定し、連絡を取り、フィールドワークに出かけるという手順で実施した。

Ⅳ.4.4　年間計画（２学期）

２学期

7	9/1	「問い」に対して調べてみる①	問いの立て方を学ぶ
8	9/8	「問い」に対して調べてみる②	
9	9/15	調べたことをまとめてみる①	
	9/22	校祭	
10	9/29	調べたことをまとめてみる②	
11	10/6	発表	
	10/13	２学期中間考査	
12	10/20	次にどんなことに取り組みたいと思うか（探究サイクルの定着）	
13	10/27	グループ分け・メンバーの顔合わせ（地域探究）	地域探究
	11/3	文化の日	
14	11/10	【人生講演会　４０分×６限】テーマ別活動Ⅰ（地域探究）外部講師授業・講話	
15	11/17	テーマ別活動Ⅱ（地域探究）研究計画案作成	
16	11/24	テーマ別活動Ⅲ（地域探究）フィールドワーク①②	
	12/1	２学期期末考査	
17	12/8	テーマ別活動Ⅳ（地域探究）フィールドワーク③④	
18	12/15	テーマ別活動Ⅴ（地域探究）フィールドワーク⑤⑥	
	12/22	保護者会	

Ⅳ.4.5　年間計画（３学期）

３学期

	1/12	学びの基礎診断	地域探究
19	1/19	テーマ別活動Ⅵ・まとめ発表準備①（地域探究）	
20	1/26	テーマ別活動Ⅶ・まとめ発表準備②（地域探究）	
21	2/2	テーマ別活動Ⅷ・まとめ発表準備③（地域探究）	
	2/9	学年末考査	
22	2/16	テーマ別活動Ⅸ・まとめ発表準備④（地域探究）	
	2/23	天皇誕生日	
23	3/2	テーマ別活動Ⅹ・まとめ発表準備⑤（地域探究）	
24	3/9	成果発表会（地域探究）	
	3/16	スポーツ大会	

フィールドワークの様子①

フィールドワークの様子②

フィールドワークの様子③

３　成果発表会

３学期は、１年間のまとめとして成果発表会を開催した。本年度は、１・２年生合同で実施を試みた。

１年生は、各クラス代表１グループ、合計７グループが発表した。発表場所からＺＯＯＭで、他の１・２年生の教室へ発表の様子を配信し、他の１・２年生は自分たちのクラスでそれを視聴する形式をとった。発表は木曜日５時間目の総合的な探究の時間、１時間をあてた。

Ⅳ.4.6　１年生の発表テーマ

１年生	組	内容
	1	死刑制度は本当にあった方がよいのか。
	2	日本人の読書離れは本当か
	3	現在もプラスチックごみ問題は改善に向かっているのか
	4	なぜ古い歴史的建築物を残すのか
	5	睡眠時間は勉強などの日常生活に影響を与えているのか
	6	社会現象を起こすアニメに共通点はあるのか
	7	コロナ感染症を減らすためには

２年生は、次の６時間目（ＬＴ）に発表した。１時間を前後半に分けて、すべての班が、前後半いずれかに分かれ、発表をしない方の半分と１年生が、見たいテーマの発表場所に出向いて発表を見る形式とした。

Ⅳ.4.7　２年生の発表テーマ

２年生

前半

組	班	教室	内容
1	1	2-1	給食のフードロスを減らすには
	2	1-1	商店街を衰退させないためにどのような取組をするべきか
	3	第3車	都会と田舎で違った食品ロスの減らし方に違いはあるのか
2	1	2-2	身の周りの大気汚染について私たちにできることは？
	2	1-2	青水と汚水の違いが生まれる原因は？
	3	第4西	非常食は何日分必要か
3	1	2-3	非常食について知ろう
	2	1-3	名古屋の食文化
	3	第4車	いるストレスといらないストレス
4	1	2-4	学校の給食について
	2	1-4	食品ロスの対策について
	3	視聴覚	ハザードマップの重要性
5	1	2-5	「食品ロスの実態」日本の現状と世界の現状
	2	1-5	「防災の備え確認」非常食、ＡＥＤ、当知中、港区防災センター
	3	第3西	「栄養バランスのとれた食事」（食物繊維、れんこん、マーボー豆腐作ってみた）
6	1	2-6	日本の給食の現状
	2	1-6	日本食の伝統と海外ニーズへの商立
	3	第2車	サプリメントの必要性
7	1	2-7	水力エネルギーについて
	2	1-7	マイクロプラスチック削減について
	3	第2西	プラスチックゴミみついて

後半

組	班	教室	内容
1	4	2-1	名古屋城の取り組み
	5	1-1	家庭でできる食品ロス対策
	6	第3車	稲葉通商店街町おこし
2	4	2-2	健康的なダイエットとは？
	5	1-2	スーパーマーケットの食中毒に対する心がけ
	6	第4西	日本と世界の食文化の違い（インド）
3	4	2-3	ケバブの歴史について
	5	1-3	睡眠時間による健康状態の違い
	6	第4車	心と身体の関係性
4	4	2-4	食について～皆と知る食品ロス～
	5	1-4	南海トラフ巨大地震への対策
	6	視聴覚	ハザードマップの重要性
5	4	2-5	『学校にいるときに地震が起こった場合』地震・対策
	5	1-5	「名古屋めし」みそカツ、みそ煮込みうどん（だて料さん）
	6	第3西	「港防災館に行ってきました！」タンク車、はしご車、港消防署
6	4	2-6	食物の現状と課題
	5	1-6	港まつりの現状と私たちにできること
	6	第2車	浮世絵の今と昔
7	4	2-7	食品ロスについて
	5	1-7	日本食について
	6	第2西	食品ロスについて

成果発表会（２年生）の様子①

成果発表会（２年生）の様子②

成果発表会（２年生）の様子③

成果発表会（２年生）の様子④

４　令和４年度のまとめ

令和２度からの３年間、「地域の未来を創る人材育成事業（道徳教育推進事業）」の実践校として事業委託を受け、総合的な探究の時間を活用しながら事業実践に取り組んできた。しかしながら、各年度の実践は順調に進んできたわけではなく、様々な課題が露呈し、その対応に追われながら３年間を終えた感がある。特に、開始年度から新型コロナウイルス感染症の感染拡大があり、学校の臨時休業をはじめ、計画した内容の中止や変更を余儀なくされながら、手探りの状態で取組みを進めてきた。

特に大きな課題として挙げられるのは、一つ目は、総合的な探究の時間がこれまでのような一斉教授型の指導ではなく、生徒がこれまでの経験をもとに自ら問いを見出し探究する力を育成することに主眼を置くため、その指導方法に教員集団が慣れておらず、全体としての指導力が成熟していないという点である。二つ目は、学校内の組織の問題である。中心として担当する一部の教員に負担がかかり、自身の教科指導の準備や本来の校務分掌業務に追われ、十分な準備ができないまま毎週の探究の時間を迎えてしまうという点である。

解決策としては、一つ目の課題に対しては、適切な教員用のテキストを活用することで対処したい。令和４年度からマイナビのテキストを取り入れたが、令和５年度からは、「一生使える探究のコツ『入門編』（トモノカイ）」・「ワークブック」を教材として利用する予定である。

二つ目の課題に対しては、令和５年度から校内組織の再編を図り、これまでの図書部を「図書・探究部」として再編し、本来の図書館業務や芸術鑑賞行事に加え、総合的な探究の時間と委託事業、さらに、ホームページの更新や各種情報発信を分掌業務として加えることとした。

令和５年度から本事業は、「地域の未来を拓く人材育成事業」として継続され、本校は引き続き事業の委託をされることが内定している。これまでの経験を活かし、生徒の入学から卒業までの３年間を見通した本校独自の「総合的な探究の時間」を確立し、より充実した取り組みができるようにしていきたい。